

96号墳

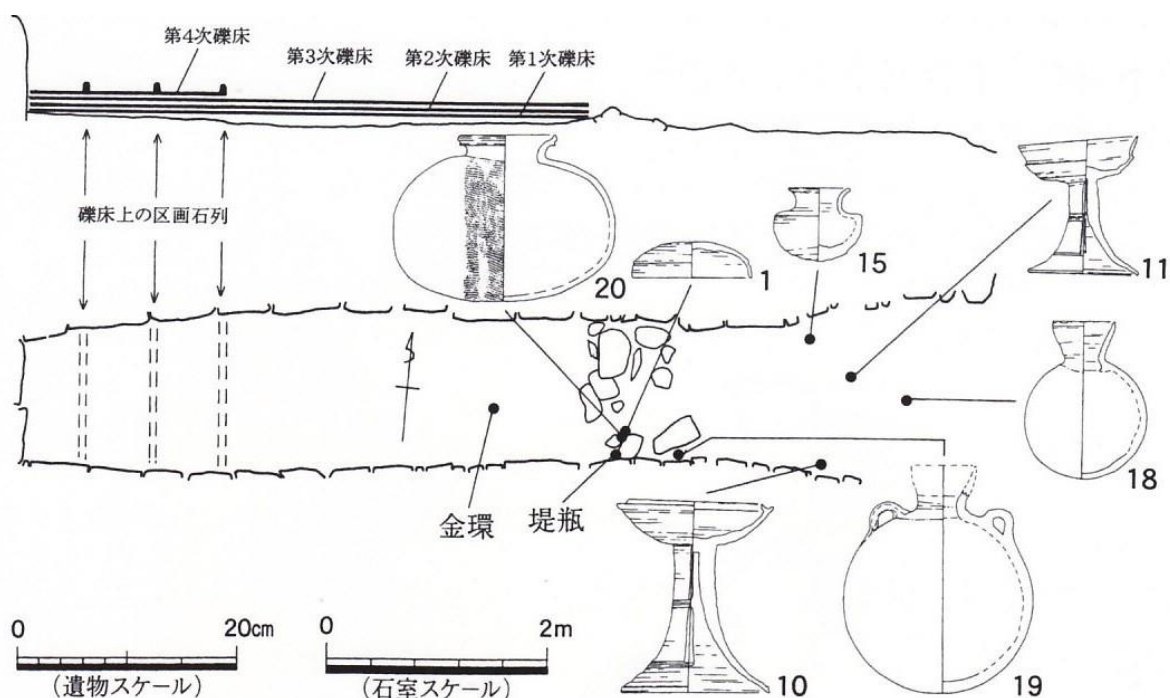
96号墳は、昭和42年に開発工事に伴って95、97号墳とともに新たに発見されたものです。

発見時にはすでに大きく破壊されていましたが、石室の床面付近は良好な状態で、追葬など埋葬の過程をくわしく知ることができました。

埋葬施設は全長約9mの横穴式石室で、玄室の床には礫が敷か

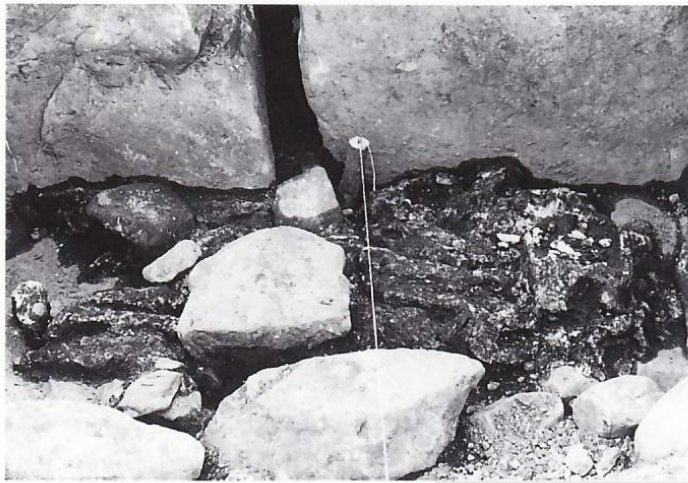


96号墳の横穴式石室



96号墳石室内のようす

れ、奥^{おく}には石で仕切った3つの区画が設けられていました。そして、各区画に1体ずつ、合計3体分の人骨が片づけられていました。一方、



人骨出土のようす

は合計4人で、埋葬^{まいそう}のたびに^{れき}石^しを敷き重ねていき、最終的に4回重ね敷かれた部分ができたと思像できます。

副葬品^{ふくそうひん}は須恵器^{すえき}の他に鉄鏃^{てつぞく}、耳環^{みみわ}、ガラス小玉^{こだま}などが出土しています。

玄室^{げんしつ}の入口近くには1体が横たえられていたようです。床に敷かれた^し石^{れき}は、3重、ところによっては4重に重ねられていました。

これらを総合すると、この石室に埋葬^{まいそう}されたの



96号墳の出土遺物

これらの遺物から、古墳が造られて最初の埋葬^{まいそう}が行われたのは7世紀前半頃で、7世紀中頃まで追葬^{ついそう}が行われていたと考えられます。石室内の状況から、この間に少なくとも4人が埋葬^{まいそう}されたと考えることができるでしょう。

以上のように、96号墳は埋葬^{まいそう}の過程がわかる貴重な例です。

池田町教育委員会「願成寺西墳之越古墳群資料調査報告書」1999年